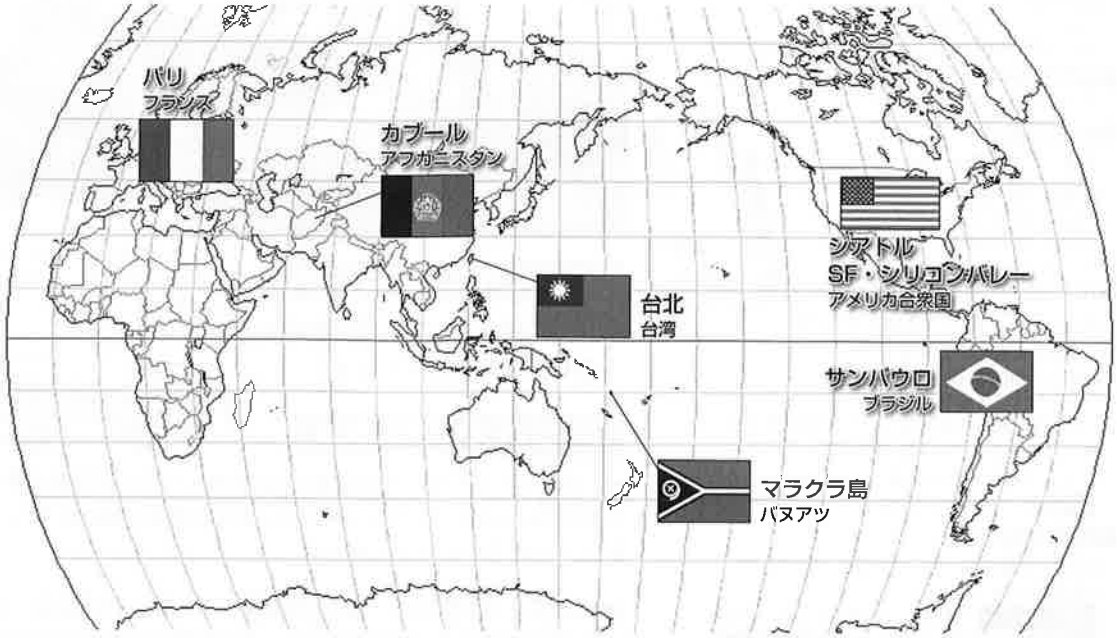


PART II

# 世界の街から、人から

## 一躍動する都市、活躍する関学生一

前号の特集 大好評につき第2弾を企画いたしました。  
今年からクアラ Lumpur 支部が 21 番目の海外支部として誕生する予定です。  
ますます広がる世界のネットワークと関学生を引き続きご紹介します。



### 若い大都市サンパウロ

矢沢 年員 (S 39 大文)  
関西学院同窓会ブラジル支部 支部長  
喜多山 重男 (S 39 大経)  
副支部長



左・喜多山氏、右・矢沢氏

や衛星都市に住む勤労者や学生がバスや鉄道で動きを始めます。7時過ぎると地下鉄は混み合い、マイカーや市内バスで渋滞が始まります。パウリスターノ (サンパウロの住民) の多くは勤勉です。「サンパウロがせめて治安さえよければなあ...」とよく話題になります。銃器や麻薬による犯罪は日常的で、他にも多くの社会問題を抱えています。当局も市民も平然としている感さえあります。2014年のW杯でサンパウロ郊外のサッカー場が改築費6億レアル(約300億円)の3分の1の調達方法が未決定のまま開催競技場に決定されたことが国民性をよく表

サンパウロは朝が早いので、都市圏人口が2000万人といわれ、午前5時には近郊



地下から外へ出た地下鉄車両

している。市民の多くは数年先のW杯まで2016年のリオ夏季オリンピックなど今は話題にもしませんが、しかし、いざその時になると何とか格好をつけるのがブラジルのでしょうか。

豊富な鉱物資源と生産量1.6億トンにもなる農作物の恵を受け、近年新興4カ国の仲間入りし、GDP世界第7位、G20でも存在感を増しました。初の女性大統領ジルマ・ルセフ氏に国の舵取りが期待されています。

ブラジルの躍進の恩恵を一番受けているのも南米1の経済力を誇るサンパウロです。副都心部では高層ビルがいつの間にか立ち並び、中級以上の住宅地区では瀟洒なマンションの建築ラッシュが起きています。市内を走る自動車が一番目立って新しくなりました。2011年度の自動車販売は363万台と予想され、その多くをパウリストアーノが買います。トラックの販売も急増し、運転手不足が起こっています。また多様な文

化の発信地で国際的イベントが常時開催されており、毎年恒例のパウリスタ大通りで行われるゲイ・パレードには性への偏見に抗議して、内外から推定300万人のゲイやレズビアンが集まり、デモ行進としては世界記録だそうです。中国人や韓国人の台頭も目覚しくリベルターデ地区にある日本人街はいまや東洋人街と呼ばれています。街は商品で溢れ、韓国製テレビや中国雑貨が圧巻です。移民がルーツの各国の外食産業も盛況で、健康志向の追い風を受け日本料理店が市内至る所に400軒はあるといわれています。このブラジルの発展にあやかり、将来多くの日本企業が政治的リスクが少なく、親日的で労働力豊かな、宗教や文化の違いにこだわらないブラジルに進出すると確信しています。

51年前に出来た関西学院同窓会ブラジル支部はサンパウロにあり、現在総会員数21名で、関西学院同窓会公認の中南米研究会OB・OGの「かりぶと会」と交流も深めています。また近い将来、昨年6月に提携・協定



ブルックリン ノーボ地区

が結ばれた関西学院とサンパウロ州立大学経済学部との交流事業で先生方の学術交流や学生の交換留学が始まるのを楽しみにしております。

### 脇腹に拳銃

小南 俊也 (S60大経)

ブラジル支部会員  
三菱東京UFJ銀行サンパウロ支店勤務



三菱東京UFJ銀行のサンパウロ支店現法勤務となつて、今年初で丸5年になります。ブラジルは不況から素早く立ち直り、今年の経済成長率は8%弱と寧ろ過熱気味。正に地球の裏側で情報量が少なく、言語がポルトガル語である事から、日本からの進出企業は300社余りと未だ多くはありませんが、5年前に比べれば、ブラジル関連の記事等は格段に増えてきたと思います。仕事柄、当地進出を検討中の企業の方々とお話する機会もあります。その数も着実に増えており心強い限りです。当地には100年を越える日系移民の歴史があり、日本人に対する偏見や差別を感じた事はありません。しかし治安は良いとは言えず、1年程前に「レス

トラン丸ごと強盗」に遭遇、人生で初めて拳銃を脇腹に突き付けられる経験をしましたが、海外勤務に危険はつきもの。当地同窓生の数は多くはありませんが、今後日本からの企業進出ブームが起き、我こそはと思われる同窓生の方々が手を上げられ、当地同窓会が隆盛を極める事を願っています。とても快適なところですよ、治安を除けば本当に。

## 文明と原始自然

竹沢 潤二郎 (S34大法)

ブラジル支部会員



1959年の卒業と同時にブラジルに移住した。5年後一旦帰国したが、ブラジルの自然の引力に負けて1982年に家族と共に再移住して来た。以前手に入れた1500ヘクタールの原始林に覆われた農耕地があつたからでもある。サンパウロの北2200キロ、マトグロソ州の首都クヤバーから500キロのこの地で政府の融資を受けゴムの植林事業を始めた。さらに野生蜂のプロポリス生産も始め今に至っている。

農場開拓の傍ら、南米中央部の広大な水郷地帯(パンタナル)に観光と釣り客相手のホテルを経営した。しかし開発に伴う人口増加は自然を破壊し、10年後には廃業に追いやられてしまった。

300年前、ルソーはその著書「エミール」の巻頭で、「人間は化け物で人間のすることはみな悪い。」と書いている。でもそうしないと人間社会はもつと悪くなる。とも書いている。近代社会が美化されてどまることがないが、文明と原始自然は反比例するようである。

## 夢を求めて

山本 剛介 (S38大商)

ブラジル支部会員  
在伯大阪なにわ会副会長



卒業式の3日後1963年3月30日、神戸港を出発、5月14日にセントス港着でブラジルに移住しました。3年後一旦帰国し、結婚して再移住しました。移住の動機は就職難と外国への興味からです。関学中南米研究会所属で、ブラジル帰りの多くの先輩達の話に夢も膨ら

ませながら、ブラジルで起業したい思いはあつたのですが、万年サラリーマンを通しました。米系、独系、ブラジル系と諸会社に勤め、その後、47歳の高齢で、在サンパウロ日本国総領事館に就職しました。2005年9月が定年退職で、日本語が困難な多くの日系人の手助けをし、感謝され、自分に最適の仕事だつたと思います。

現在は大阪府出身者の集まり在伯大阪なにわ会の副会長をし、日本移民資料館の資料のデジタル化に携わる傍ら、日系旅行会社でアルバイトもしています。過去2度の心臓、バイパス手術を受けましたが、適度の水泳とカラオケ、読書を楽しんでいます。長男はパラナ州で開業医をしております、次男は大学の研究室勤務です。男女2人ずつ孫にも恵まれ、充実した日々を送っています。





## 歴史あるサンフランシスコ・ 発展著しいシリコンバレー

阿部 真 (S56大社)  
関西学院同窓会サンフランシスコ・  
シリコンバレー支部副支部長



皆さんはサンフランシスコ、シリコンバレーと聞いて、何を連想されるでしょうか。ゴール

デンゲートブリッジ、チャイナタウン、ケールブルカー、そしてシリコンバレーといえはハイテクのメッカ？  
サンフランシスコは風光明媚な観光の街として、根強い人気があるようです。海が近くて起伏に富んだおしゃれな街並や、霧に包まれて幻想的な雰囲気をかもし出すゴールデンゲートブリッジなど、いつ訪れても楽しく魅力にあふれた街だと思えます。  
しかしながらこのところ、カリフォルニア州は財政難、



サンフランシスコ、シリコンバレー地区では相変わらず失業率が高く、持てる者と持たざる者の格差が広がっているような感があります。



SF ジャイアンツ優勝パレード

そんな中、2010年はメジャーリーグ(野球)のサンフランシスコジャイアンツが、ワールドシリーズで優勝して初めて全米チャンピオンになりました。優勝パレード当日には近隣からも数万人の人達が集まって、サンフランシスコの町はとて大きな活気に包まれました。

そのサンフランシスコから南へ車で1時間ほど下ったところに、シリコンバレーの中心と呼ばれる地域が広がっています。ハイテクで有名なシリコンバレーは、サンフランシスコの南からサンノゼあたりにまで広がる地域の俗称で、そういう名前の町があるわけではありません。もともとは半導体の材料として使われるシリコンからその名が付けられました。現在この地域には半導体関連企業のみならず、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、テレコ

ミュニケーションなど、実にさまざまなハイテク関連企業が集積しています。グーグル、アップル、ヒューレットパッカード、インテル、オラクル、ヤフー、そしてフェイスブックやツイッターなど、日本でもおなじみの企業が数多く存在します。

サンフランシスコ、シリコンバレー地域に拠点を構える日系企業も多く、スタンフォード大学、UCバークレー(カリフォルニア大学バークレー校)、サンフランシスコ州立大学、サンノゼ州立大学など、近隣の有名、有力大学やその他の学校へ通う日本人学生も少なくありません。現在40名の会員を有する関西同窓会サンフランシスコ・シリコンバレー支部にも、これらの企業に勤務する人達や、これらの学校で学ぶ人達が集まっています。

この地域を訪問される関西同窓生や学院関係者の方々がおられましたら、是非ご一報ください。こちらで皆様にお目にかかれるのを楽しみに致しております。





### 感謝の気持ちを忘れずに

田巻 理恵(旧姓 成田)(S56大文)  
サンフランシスコ・シリコンバレー支部会員



関学卒業後、外資系銀行に勤務、87年にアメリカ留学。卒業後は日本に帰って英語の先生に、と思

っていたのにアメリカ生活が楽しく、ニューヨークに残ることを決めました。IT関連の会社に勤務後、金融機関に戻りその後結婚。主人の仕事がきっかけでシリコンバレーに移ってきてカリフォルニア生活も早10年になります。

現在は日系銀行米国現地法人のサンノゼ・オフィスで日系・アジア法人部で勤務し、半導体、ITテクノロジやバイオ系企業、また日本人起業家がこちらで作った会社などを営業担当しており、本当に幅広い分野で活躍している方々に会えて勉強になります。

金融の中心地ニューヨークを恋しいと思ったこともありましたが、気候に恵まれ、家族で年中アウトドア・アクティビティーを楽しめるカリフォルニアからは離れ難いです。今までのアメリカ生活で色々な人々に助けられて今の自分がいるという感謝の気持ちを忘れずに、これからアメリカに出てくる日本人の方々のサポートも出来るようこれからも頑張りたいです。

### 連日連夜電話会議

橋本 悦子(H4大社)  
サンフランシスコ・シリコンバレー支部会員



その名もきらめく最先端のIT会社社がひしめくシリコンバレー、どんな都会だろうと思つてやつてきたら、緑広がる処にもなくのどかな場所でした。何処に行くにもほぼ100%車移動。ここで働き始めたのが7年半前。現在はプログラムマネージャーをしています。

インド人のエンジニア、イギリス人の上司、中国人、ロシア人などなど、色々なバックグラウンドを持つチームメイトたち。彼らの半分以上がインド(バンガロール)オフィスにいますので、約12時間の時差を乗り越えて連日連夜電話会議です。インド人はクイーンズイングリッシュに独特の巻き舌発音。私は日本人訛りのブロークンアメリカ英語、お互い最初は何を話しているのかよく分からず、何度も聞き返したり、聞き返されたりしたものです。昨年5月インドに出張する機会に恵まれました。チームメイトたちと一緒に食事をしたり、仕事以外の事も色々話したりして仲良くなつて以来、コミュニケーションも少しずつスムーズになつてきたように思います。オープンマインドでいる事が大切ですね。



### アフガニスタンでの国連平和維持活動

向井 明代(H8大経)  
国際連合所属(当時)



コンボでの任務を終え、長期休暇中滞在していたフランス、パリで2001年9月11日のアメリカ同時多発テロのニュースを知りました。その時、まさか自分がアフガニスタンの任務に就くことになるうとは、夢にも思いませんでしたが・・・

私は2004年、アフガニスタンで国連に所属し、元タリバンの社会復帰に関するプログラムに関わりました。これはDDR(武装解除・動員解除・社会復帰)という国連主体の平和活動の二環で、世界各地の紛争地域で実施されています。日本はDDRの主要ドナー国であり、大きく貢献しています。一口にDDRといっても、紛争の停止、治安の回復、経済の発展と多くの側面を持っており、大変重要な活動である一方、実施はそう簡単ではありません。

2001年アメリカ軍の空爆後タリバンの活動は縮小し、治安の回復が見られていましたが、2003年のアメリカ軍のイラクでの攻



思いっきりスタンフォード生活

前田 彬宏 (H20大総)  
サンフランシスコ・シリコンバレー支部会員



関学卒業後編入したマサチューセッツ州のAmherst Collegeで2年間コンピュータサイエンス(CS)を学んだ後、現在スタンフォード大学CS学部の修士一年生として人間にとって使いやすいコンピュータとは何かを考える分野(Human-Computer-Interaction)を学んでおります。理系への転向を決断して4年。こうして「ITの聖地」で自分が学ぶことになるうとは夢にも思いませんでした。

奇跡的に入学はできたものの、さすが世界最高峰、一学期目は苦戦続きでした。今学期はウェブ上で動くアプリを作る授業等を履修しましたが、仲間は皆自分より頭が良く、経験もあり、頼みの綱のモチベーションの高さも彼らにしてみれば当たり前、自分を役立たずだと思ふことが多くありました。そんな中でもとにかくできることだけはしっかりとやっつけていくように心がけ、多くの方のサポートでどうにか一学期を乗り越えました。おそらく一生の間でもそうできない貴重な経験。ちょっとしんどいことも全部ひっくるめて思いっきりスタンフォード生活を味わっていききたいと思っています。

「住みついた」街・シアトル

松山 宇多子(旧姓 河村)(S37大文)



雪を被った山々を背に海と湖に囲まれたシアトルは、四季を通じて美しく住みやすい。新鮮な魚介類、州東部から直送されるチェリーやリンゴ、そして名産のワインもおいしい。小柄ながらしっかりと落ち着いた街の佇まいには、えもいわれぬ魅力がある。

緑あふれるワシントン大学に留学したのは40年前。キャンパスは、どこか関学の趣もあり広々とのどかで美しい。ここは私が何年も「住みついていた」所である。博士課程を終え、大学で教えながら近郊の公立小学校で英才教育のクラスを担当した。各々

の子供の能力に合わせた教材を用意するのは大変な仕事だった。17人の子供たちとの泣き笑いの二年間は思い出す度に私を幸せにしてくれる。未だにクリスマスカードを送ってくれる子供たち、どんなに自信を失った時にも厳しさと優しさで励まして下さった教授達、ルームメイト、友達・・・私にとってシアトルの素晴らしさは、そこで出逢った人達である。

私は今、シアトルの片隅で夫と二人のどかなりライフアメントを楽しんでいる。庭を駆けまわるリスや野うさぎを眺めながら。

撃の頃から、タリバンが再び勢力を盛り返しつつありました。次第に私の活動も制限され、私が滞在していたカブールの国連宿舍の同僚3名が、市内で日中誘拐される事態が起こり(1ヶ月後みんな救出されました!)、その頃には毎晩ロケット弾の音が聞こえ、宿舍の防空壕に避難するというありさまでした。

街角を歩く人々の顔を見ると、アフガニスタンは人種のるつぼ、言語も多種にわたり、同じアフガン人でありながら異なる人種間の軋轢が存在するのは事実です。こうした複雑さに加え、イスラムという宗教、貧困など、この国を統治するのは「筋縄ではいかない」のも明らかです。とはいえ、壮大な歴史と文化を持つ国、アフガニスタンの早期の平和回復を心から願って止みません。

現在は、コソボにて知り合ったオーストラリア人の夫とタイから連れてきた猫2匹とで、マレーシアのペナンに住んでおり、これまでの私たちの経験に基づいて、開発援助の現場でのプロジェクトを、ウェブ上で管理できるシステムを開発しています。こうした粉骨砕身している現場のマネジメントを、今後も陰ながらサポートし続けたいと思っています。



## パリ、パラドックス

島岡 現 (S59大文)

パリ支部幹事  
俳優、音楽家



「パリに一度足を記した者には一生パリの影がついて回る」とは誰の言だろうか?この街で出会い、そして別れた恋人にも似て、愛憎交錯。許したい面があるかと思うと、故にかえって秘められていた美しさが引き立ち、ハッとさせられるパリ。「花の都」に憧れる余り、現実とのギャップに心の病に陥る同胞も少なくないと聞く。けれども Ying/Yang (陰陽) 二面性を兼ね備えた、ちゃっかりさと気まぐれさこそパリの魅力なのではないか?

卒業後、グラスのSMU、ニューヨークのジュリアード音楽院を経てパリに流れ着いたのは90年秋。かつてそのSMUに交換留学中、大胆不敵にもコンサートバス奏者になることを考えていた頃、基礎ゼミでお世話になった仏文の曾我先生からはがきを頂いた。「現さんが海外で自由に生活するのは良いこと

だと思う。」その「自由な生活」とは、南仏の拙宅とパリを往復しながら、映画、サーカス、オーケストラ、舞台と、日替わり定食顔負けの器用貧乏を演ずることだとは、お釈迦様でもお見通しじゃなかっただろう。今春、齢51にしてミュージカルの舞台に初挑戦、というのもパリならではの「ちゃっかりさと気まぐれさ」はどうやら私の本性と共振するものであったらしい。

昔の話だが、英文科でご迷惑をおかけした笹山先生が書いておられた。「Mastery for Service」とは面白い表現だ」と。傲慢なMasterが「奉仕」に服従するというパラドックスに、ユーモアがあるのだろう。その意味で、器用貧乏に「ちゃっかりしつかり」磨きをかけて御用に供するには、今度のミュージカルは絶好の機会かもしれない。

パリ支部はうるわしき女性パワーに圧倒されることしばしば。一人ぐらいい気まぐれ人生のオッサンがおつてもええんちゃうか、それもまたパリらしゅうて。



## Dr. コトー 歯科診療所

くバヌアツ

吉竹 弘行 (S51高等)



Vanuatu という国名も、最近ではマスコミ等で紹介されるようになりましたが、まだまだ知名度は高くありません。「アフリカですか?」と尋ねられることが多いのですが、実はオーストラリアのケアンズの東、約2000kmの南太平洋に浮かぶ、人口約25万の島国です。

1980年に独立するまでは、英仏両国の統治下にありました。年配の方々には、ニューヘブリデス諸島という方が解り易いかもしれません。温厚なバヌアツ人をして「貧しくても独立したい」と思わせる程、統治下時代は大変な苦悩もあったようです。しかし2006年には、シンクタンク「新経済財団」等から「地球上で最も幸せな国」に選ばれています。



飛行場 (といっても単なる原っぱです。)

とはいえ国民の70%が自給自足という国ですから、ライフラインが整備されて



愉快なるカオス@台北

河村 裕之 (S58大社、H10前社会)

台湾支部副支部長  
淡江大学外国語学部教員



サオ族豊年祭で

日本について考えさせられることが多いので、親しみを感じてくれる人が多くに驚き、アンバランスが恥ずかしく思えました。エスニック・アイデンティティについて考えさせられることも多い所です。言語も多様ゆえテレビ放送は字幕付き、地下鉄等の車内放送も英語を含め4言語です。

生活は便利、街はにぎやかです。百貨店や医者も夜遅くまで開いており、24時間営業の大型書店もあります。コンビニ数も人口比世界一とか。屋台、夜市もあちこちに。朝も早くから動き出す人が多く、朝食屋がにぎわいます。新聞コラムで天野祐吉氏が「台北の風景には濃厚なぐらゐ『生活』がある」と書いていましたが、決して秩序だっ

殆ど何も

知らずに来て恥ずかしく思いました。歴史的経緯があるとはいえ、

ていないカオスの魅力、これが街の活気になっているのかと感じます。また、3000メートル級の山が2000座以上、温泉も多く、楽しんでいきます。初めて来たのは1981年、休学しYMC A日本語教師として1年。卒業後、台中の東海大に勤めることになりました(のち姉妹校に。姉妹校は現在計4校)。どちらも国際センター藤田允室長のご推薦でした。一度帰国し大学院で学ぶなどし、1998年から台北の大学にいます。大学時代からエスニックに関心はありましたが、多くのエスニック・グループの存在を実感するこの地で暮らすな改めて学びたくなり、学部ゼミ(文化人類学)でも指導を受けた山路勝彦先生の下で勉強しました。修論テーマは台湾客家のエスニック運動に関するものでした。

支部は1984年創立、尽力されたのは戦前に関学で学んだ台湾出身の先輩方です。しんどいとき、上ヶ原につながる思い、多くの出会いがエネルギー源になることがしばしばです。



いるのは、首都のポルトヴィラ等、ほんの一部の地域だけという状況です。ちなみに未だ信号機はなく、エレベーターも昨年初めて首都にお目見えして大騒ぎになったようです。

小生はそのポルトヴィラから小型機で1時間程北に飛んだ、マラクラ島という島で、約15年前から年に1〜2回、歯科医療活動をしております。最近では諸外国からいわゆる「文明」と称してチヨコレート等が、ライフラインの整っていない村々にまで入り込み、虫歯や歯周病が著しく増加してきました。その為、今まで行ってきた歯科治療や口腔内検診以外に、具体的な歯ブラシ指導や、病院関係者への啓発活動も始めております。いずれも細々とした活動ですが、決して豊かではないけれども非常に穏やかなバヌアツの人々に助けられてここまで続けることが出来たと思っております。又、中学部や啓明学院の生徒の皆さんには歯ブラシ収集で協力して頂くなど、中学部、高等部とお世話になりながら、大学は裏切ってますか？ 歯学部へ進んだ小生を、暖かく迎えてくれる関西学院に感謝しております。



初めての歯ブラシをもって……